

モーセによって予表されている真の預言者 2020/4/6~12

Overview: 預言者は、神の啓示を直接受けて、神の霊によって動かされて、神のために語り、神を語り出します。聖書のどの預言も、預言者や筆者の解釈から出てきたものではありません(I)。モーセは、キリストを予表する預言者として、イスラエルの子たちを導いた四十年間、神のために彼らに語り続けました。彼は特に申命記において、神の言葉を繰り返し語りました。彼は、イスラエルの子たちが神を捨てて、神によってすべての諸国民の中へと投げ込まれるということ、イスラエルの子たちが悔い改めて、神に向きを変える時、神は彼らを諸国民から集められるということとを予言しました(II)。キリストは、神によって神の民に約束された預言者です(III)。キリストはご自身の地上の務めの間に、来たるべき事を明らかにすることによって預言し、予告しました。キリストは今日、私たちの中にいて、なおも神のために語って神を語り込んでいます(IV)。モーセは、自分自身の感覚から来るものを語ったかもしれませんが、この事でさえ、神の言葉となりました。申命記のモーセの語りかけは、Iコリント7章のパウロの語りかけのようでした。これは受肉の原則であり、最高の霊性です(V)。

I. 預言者は、神の代弁者です：

アモス3:7 まことに、主エホバは、彼の秘密を彼のしもべ、預言者たちに啓示しないでは、何事もなさない。

A. 預言者の機能は、神のために語ることです。

B. 聖書によれば、預言者の主要な機能は、来たるべき事を予言することではなく、神の啓示によって神のために語り、神を語り出すことです。

C. 神は語る神であり、旧約で、多くの部分において、多くの方法で、預言者たちを通して、人々に語られました：**1.** 神は隠されていますが、預言者の語りかけを通して、神ご自身と神の意図は知らされています。

2. 預言者は、神の啓示を直接受けて、神の霊によって動かされて、神のために語り、神を語り出します：

II ペテロ1:20-21 まず、このことを知りなさい。聖書のどの預言も、人自身の解釈から出てきたものではありません。なぜなら、かつてどの預言も、人の意志によってもたらされたのではなく、人々が聖霊に動かされて、神によって語り出したからです。**a.** かつてどの預言も、人の意志によってもたらされたものではありませんでした。

b. 人の意志、願い、願望と人の思想、解釈は、預言の出きた源ではありませんでした。**c.** その源は神でした。人々は神の聖霊に動かされて、船が風に動かされるように、神のみこころ、願い、願望を語り出しました。

d. 聖書のどの預言も、預言者や筆者の解釈から出てきたものではありません。なぜなら、かつてどの預言も、人の意志によってもたらされたのではなく、また人の意志によって出て来たものでもないからです。そうではなく、人々はその霊に動かされて、神によって語り出しました。

D. 偽預言者は、神が語るように命じていない言葉を、不遜にも神の御名の中で語る者です。

II. モーセは預言者でした。彼は預言者として、キリストを予表しています：申18:15 エホバ・あなたの神は、あなたがたのうちから、あなたがたの兄弟たちのうちから、私のような預言者をあなたのために起こされる。あなたがたは彼に聞き従わなければならない。

18 私は彼らのために、彼らの兄弟たちのうちから、あなたのような預言者を起こそう。私は彼の口に私の言葉を置く。彼は私が命じることをすべて、彼らに語る。**A.** モーセはイスラエルの子たちを導いた四十年間において、神のために彼らに語り

続けました。モーセは特に申命記において、イスラエルの子たちに神の言葉を繰り返し語りました。

B. モーセは神の代弁者として、年老いた、愛する父親のようであり、多くの愛と関心とをもって彼の子供たちに語りました：**1.** モーセが語ったのですが、彼は自分自身の言葉を語りませんでした。彼は神の言葉を語りました。**2.** 彼は神のために語り、神を語り出し、イスラエルの子たちの中へと神を語り込みました。

C. モーセは、神の思想をもって浸され浸透されていた人であっただけでなく、語る神ご自身をもって構成されていた人でもありました。ですから、彼の口から出て来た言葉は、この一人の代弁者を通して語られた神の言葉でした：**1.** モーセは四十年間、神の代弁者として仕え、神のために語り、神を語り出し、予言しました。彼が語ったあらゆる言葉は、神の言葉となりました。

2. モーセは、イスラエルの子たちが神を捨てて、神によってすべての諸国民の中へと投げ込まれるということ、イスラエルの子たちが悔い改めて、神に向きを変える時、神は彼らを諸国民から集められるということとを予言しました。**3.** モーセはこのような預言者として、キリストの予表です。**4.** モーセは、神がモーセに語るように命じられたことをすべて、イスラエルの子たちに語りしました。同じように、主イエスは、御父が主イエスに語るように命じられたことをすべて語りしました。

III. 旧約の預言者モーセは預言してこう言いました、「エホバ・あなたの神は、あなたがたのうちから、あなたがたの兄弟たちのうちから、私のような預言者をあなたのために起こされる。あなたがたは彼に聞き従わなければならない(申18:15)」：

A. エホバは、その預言者の口にご自身の言葉を置きました。その預言者は、神が命じたことをすべて語ります。

B. 神によって起こされたその預言者は、イスラエルの子たちがホレブで、すべてエホバ・彼らの神に求めたことによるものです：**1.** イスラエルの子たちは、神の御声を聞くことに耐えることができないとモーセに告げました。

2. 彼らが預言者を求めたので、預言者を求めた彼らの願いを神が成就することを、モーセは約束しました。

C. モーセは、エホバが彼らのうちから、彼らの兄弟たちのうちから預言者を起こすことを予言しました：

1. この事が示しているのは、キリストの肉体と成ることを通して、神がこの預言者を起こし、神の言葉を語らせるということです。**ヨハネ3:34** 神が遣わされた方は神の言葉を語る。彼はその霊を限りなく与えられるからである。

2. 「彼らの兄弟たちのうちから(申18:18前半)」が示しているのは、来たるべき預言者であるキリストが、神聖であり、また人にも属しているということです：**a.** もしキリストが神であるだけであったなら、イスラエル人のうちから起こされることはできなかったでしょう。**b.** キリストは神として、ユダヤ人のうちから一人の兄弟として出て来ることはできませんでしたが、キリストは肉体と成った方として、すなわち、人の性質を着てユダヤ人であった方として、ご自身の兄弟たちのうちから出て来ました。**c.** キリストは肉体と成った神として、人の性質を着て、ユダヤ人となりました。こういって、キリストは、モーセによって預言された、「あなたがたのうちから」起こされた預言者です。

3. 使徒第3:22~23は、申命記18:15~19を肉体と成って人と成った神であるキリストに適用しています。この事が示しているのは、キリストが、神によって神の民、イスラエルの子たちに約束された預言者であるということです。

使徒3:22 モーセは言いました、『主、あなたがたの神は、

私のようなひとりの預言者を、あなたがたの兄弟たちの中から、あなたがたに興されるであろう。彼があなたがたに語られる事は何であれ、彼に聞くべきである。23 その預言者に聞かない者はだれでも、民の間から絶ち滅ぼされる。IV.キリストは最初に来た時、神によって起こされた預言者として、務めをしました：A.キリストは肉体と成ることを通して、神の言葉を語る預言者となりました。

B.キリストは神の御言であり、また神の語りかけです：啓19:13…彼の名は神の言と呼ばれる。1.キリストが地上で神のために語って、人々を教えていた時、キリストの教えは、ご自身のものではなく、御父がキリストに教えた事にしただけです。ヨハネ8:28 私が自分からは何も行なわず、私の父が私に教えられたとおりに、これらの事柄を語っている… 2.キリストはご自分から語りませんでした。キリストは、御父が彼に語ったままを語りました。3.キリストは神の預言者として、神のために語り、神を語り出し、神を弟子たちに啓示しました。

C.キリストはまた、ご自身の地上の務めの間に、来たべき事を明らかにすることによって預言し、予告しました。

D.キリストは今日、預言者として、私たちの中にいて、なおも神のために語って神を啓示し、神を人々の中へと語り込んでいます。水

V.モーセは、真の預言者であるキリストを予表する預言者として、自分自身の感覚から来るものを語ったかもしれませんが、この事でさえ、神の言葉となりました。申命記のモーセの語りかけは、I コリント7章のパウロの語りかけのようでした：I コリント7:12

ところでその他の者に、私は言います。これを言うのは主ではなく、私です。もしある兄弟が未婚者の妻を持っていて、彼女が彼と共に住むことに同意しているなら、彼は彼女と離婚してはいけません。

A.パウロは神で構成された人であったので、彼の意見は新約の神聖な啓示である神の言葉の一部となりました：1.パウロは彼の語りかけにおいて、神と一でした。ですから、パウロが語った事は、神の語りかけでした。

I コリント7:25 童貞について、私は主の命令を受けてはいませんが、主のあわれみを受けて忠信である者として、私の意見を述べます。2.申命記におけるモーセの語りかけも、原則は同じです。

B. I コリント7章が伝えているのは、主を愛している人の霊です。この人は、地上における主の権益を顧慮し、主のために絶対的であって、主と絶対的に一であり、あらゆる面で従順で、服従しており、神と神によって案配された環境に満足しています。木

C.パウロは主と一であったので、パウロが語った時、主も彼と共に語りました。こういうわけで、I コリント7章には新約の肉体と成る原則の模範があります：I コリント7:40

しかし、私の意見では、彼女がそのままにいるなら、もっと祝福されます。しかし、私も神の霊を持っていると思います。1.肉体と成る原則とは、神が人の中へと入り、ご自身を人とミングリングして、人をご自身と一にすることです。こうして、神は人の中におり、人は神の中にいます。

2.新約において、主は彼の使徒たちと一になります。そして彼らは彼と一になり、彼と共に語ります。こうして、主の言葉は彼らの言葉となり、彼らが語ることは何であれ、主の言葉です。I コリント2:13

私たちがそれらの事柄を語るのには、人の知恵によって教えられた言においてではなく、その霊によって教えられた言においてであり、霊の事柄を霊の言で解釈するのです。(土曜)

3. I コリント7:10の原則は、ガラテヤ2:20の原則と同じです。それは肉体と成ることの原則です。すなわち、二

人が一人のように生きることです。I コリント7:10

ところで結婚している者に、私は命じます。命じるのは私ではなく主です。妻は夫と別れてはいけません。(土曜)

4. 私たちは I コリント7:25と40において、最高の霊性を見ます。すなわち、主と一であり、主で飽和されているので、自分の意見でさえも主の思いを表現している人の霊性です。5.もし私たちがその霊で浸透されているなら、私たちが表現するものは私たちの思想ですが、それは主からのものでもあります。なぜなら、私たちは主と一であるからです。これは、キリストを私たちの中で生きている預言者として経験して、神のために語り、神を語り出すことです。I コリント6:17

しかし、主に結合される者は、主と一つ霊になります。金土

Crucial Point(1):聖書の啓示は、思いの中の固定観念を神聖な思想で置き換えて、思いを更新し、魂を造り変えることで益がある

OL1:預言者は、神の啓示を直接受けて、神の霊によって動かされて、神のために語り、神を語り出します。

OL2:聖書のどの預言も、預言者や筆者の解釈から出てきたものではありません。なぜなら、かつてどの預言も、人の意志によってもたらされたのではなく、また人の意志によって出て来たものでもないからです。そうではなく、人々はその霊に動かされて、神によって語り出しました。

II ペテロ1:20-21 まず、このことを知りなさい。聖書のどの預言も、人自身の解釈から出てきたものではありません。なぜなら、かつてどの預言も、人の意志によってもたらされたのではなく、人々が聖霊に動かされて、神によって語り出したからです。

II ペテロ1:20の「人自身の」は預言を語った預言者、あるいはその預言を書いた筆者を指しています。…「人自身の解釈」とは、預言者や筆者自身の解説、あるいは解決であり、神が聖霊を通して息吹かれたものではないことを意味します。「もたらされた」と訳されたギリシャ語はまた、動かされることも意味します。…人の意志、願望、願いと人の思想と解決は、預言の出た源ではありません。源は神です。人々は神の聖霊によって、船が風に動かされるように、神のみこころ、願い、願望を語り出しました。

申命記における第一の極めて重要な点は、モーセが神の代弁者として、年老いた、愛する父親のようであり、多くの愛と関心とをもって彼の子供たちに語ったということです。…モーセは、神の預言者として神によって起こされました。彼はイスラエルの子たちを導いた四十年間、神の代弁者であり、神がモーセに命じられたすべてを、神のために彼らに語りました。同じように、キリストが地上におられた時、彼は神のために彼の弟子たちに語られました。…キリストはご自分から語りませんでした。キリストは、御父が彼に語られたままを語られました。キリストは神の預言者として、神のために語り、神を語り出し、神を弟子たちに啓示されました。キリストは今日、私たちの中にいて、なおも神のために語り、神を語り出し、神を私たちの中へと語り込んでおられます。

適用:新人及び青少年・大学生編

新人や若者の皆さんは、聖書は人が聖霊によって動かされて、神の思想と意志によって書かれたものであることを認識して下さい。聖書は神の言葉です。しかも聖書は人のために、あなたのために書かれた書です。聖書は神からのあなたへの手紙ですので、あなたはこの手紙を注意深く読んでください。

II テモテ3:15 また幼い時から聖なる書に親しんできたこ

とを、知っているからです。この聖なる書はあなたに、キリスト・イエスにある信仰を通して、救いへと至る知恵を得させることができるのです。16 聖書はすべて、神の息吹かれたものであり、人を教え、戒め、矯正し、義の中で訓練するのに益があります。17 それは、神の人があらゆる良いわざのために十分に装備されて、完全な者になるためです。

あなたが聖書を読んで益を得るために、心を開いて、自分の霊を活用して、御言葉の中の霊に触れて、主を享受することが大切です。これが御言葉を祈りの手段により受け取る、御言葉の祈り読みです。

毎朝、御言葉を祈り読みした後、御言葉を用いて主と交わって下さい。特に、御言葉の中の神聖な思想と自分の天然の観念が異なり、衝突がある時、その点を主と交わり、祈ってください。これはあなたの観念が更新される良い機会です。神のみこころとあなたの固定観念とは異なるので、あなたは主との個人的で親密な交わりによって、あなたの思いを更新していただく必要があります。そうすれば御言葉から益を受け、あなたの思いが更新され、魂が造り変えられることができます。神聖な思想であるあなたの思いが更新されるとは、何という祝福でしょう。あなたが神で満たされる時、あなたは非常に有能な人になります。あなたの天然の観念や固定観念が、あなたが神で満たされることを妨げ、あなたの有用性を無効にしているのです。ローマ 12:2 またこの時代にかたどられてはいけません。むしろ、思いが新しくされることによって造り変えられなさい。それは、何が神のみこころであるか、すなわち何が善であって、喜ばれ、完全なものであるかを、あなたがたがわきまえるようになるためです。

兄弟の証し:ヨハネ 3:16 は、「神は…世の人を愛された」と言っています。しかし私は救われた直後、神は善人を愛すべきであり、悪人を愛すべきでないと考えていました。これは私の宗教観念です。神聖な観念とは、神は罪人であるすべての人を愛された、ということです。私はヨハネ 3:16 を祈り読みして、神の愛に触れ、自分の観念と違うことを理解し、主に開いて交わることで思いが更新されました。その後、どのような人に対しても喜んで福音を伝えることができるようになりました。

祈り:「おお主イエスよ、私は聖書を愛し、御言葉を祈り読みします。主よ、祈り読みによって御言葉の中のその霊に触れて主を享受することができますように。さらに御言葉は私の思いを更新し、私の魂を造り変えることができます。思いを開きます。宗教観念から私を救ってください。固定観念や宗教観念を持ったままでは、あなたに符合し、あなたと同労し、人々や召会を祝福するために神の言葉を語ることはできません。アーメン!」

Crucial Point(2):あらゆる環境は神が主権を持って信者の造り変えのためにアレンジしている。環境を受け入れて主を経験し、造り変えられて主に符合することができる

OL1: I コリント 7 章が伝えているのは、主を愛している人の霊です。この人は、地上における主の権益を顧慮し、主のために絶対的であって、主と絶対的に一であり、あらゆる面で従順で、服従しており、神と神によって案配された環境に満足しています。I コリント 7:12 ところでその他の者に、私は言います。これを言うのは主ではなく、私です。もしある兄弟が未信者の妻を持っていて、彼女が彼と共に住むことに同意しているなら、彼は彼女と離婚してはいけません。13 また妻が未信者の夫を持っていて、彼が彼女とともに住むことを同意しているなら、彼女は彼と離婚してはいけません。

すべての環境、状況、状態の中で絶対的に主と一

であるというこの原則を見ることは重要です。I コリント 7 章を読む時、この原則を思いにとめているなら、パウロは徹底的に主と一であり、彼の指示と答えにおいて、自然に無意識的に、そのような絶対的な霊を表現していることを見るでしょう。パウロはこのような霊を持っていたので、コリント人の質問に明確に絶対的に、彼らの状況の中で神と一となるように彼らを助ける方法で、答えることができました。

この章に啓示されているもう一つのとても重要な点は、主を愛し、主のためであり、主と一である者は、いかなる種類の環境や状況をも進んで受け入れなければならないということです。例えば、ある兄弟の未信者の妻が彼と共にいることを望むなら、彼はこの状況を受け入れるべきです。しかしもし彼女が離れる決心をするなら、彼はこの環境も受け入れるべきです。

神が常に私たちの環境の中におられることを見るのは、とても重要です。環境は実は、神が変装して私たちに来られるのであると言って良いでしょう。一見して、私たちは特別な環境の中にいます。実は、その環境は私たちに来られる神、私たちと共にいます神です。24 節でパウロは言います、「兄弟たちよ、各自は召された時の身分に、神と共にとどまっていなさい」。「神と共に」という言葉に注意してください。それは、私たちが環境を取る時、神を取ることを示します。環境の内側にもその背後にも、神がおられるのです。

再び、パウロがすぐれた霊、服従し、満足している、満ち足りた霊を持っていたことを見ます。パウロには何の不平もありませんでした。彼は霊の中で、とても服従的であり、自分の状況に満足していました。彼はどのように扱われたとしても、不平を言いませんでした。彼にとって、あらゆる状況は主からであって、彼はそれを変えようと何も開始しませんでした。パウロは言うことができました、「私にとって、あらゆることは益のために働いています。ですから、私は何も変えたくないのです。私は自分の環境を取る時、私の神を取ることを知っています。あらゆる状況の中で、私の神、私が愛している方、私が絶対的に属している方がおられます」。

適用:青年在職・大学院生編

パウロは非常に柔軟な人で、あらゆる環境を受け入れました。それはあらゆる環境は神によって彼の益のために用意されているという理解があったからです。あなたもこのような優れた霊を持ってください。

ローマ 8:28 また神を愛する者、すなわち、彼の目的にしたがって召されている者たちには、すべてが共に働いて益となることを、私たちは知っています。

兄弟の証し:世界最大手の医療機器会社の日本の子会社で、薬事臨床開発と品質保証担当の役員をしていた当時、採用権があり、約30人の社員を雇う中で、兄弟姉妹を8人雇い、助けることができました。ほとんどすべての兄弟姉妹は異業種から来ていたので、業務を学ぶのに少し時間が掛かりました。私がこの会社に来てから3年が過ぎた2005年、兄弟姉妹も少し慣れてきた頃、突然人事から兄弟姉妹を全員解雇するように要求されました。私は直ちに拒否し、兄弟姉妹に伝えてこのことを共に真剣に祈りました。しかし、困ったことに人事からのこの要求はずっと続きました。その後私は祈りの中で、「これは主からである」と気付きました。なぜなら兄弟姉妹が一つ思いで祈る時、サタンへの攻撃は除き去られますが、祈っても状況が変わらないのは主がそのことをアレンジしているからです。その後、兄

弟姉妹たちの転職活動を助けました。彼らは皆うまく転職できました。私自身も残った兄弟姉妹たちを連れて会社の他の小さな部署に異動しました。この一年は環境上、激変の時であり、精神的にも大変な時でしたが、多くの霊的学課を学ぶことができました。その後、主が新しい部署を祝福してくださったので、私は著しい業績を上げることができ、2010年米国本社に、グローバルに最も優れたNo.1社員(米国本社役員以外全員が対象、子会社の役員も対象)に選ばれました。このような経験を通して私は次の事を学びました: ①環境は神がアレンジしたもので、環境を受け入れるとは実は神を受け入れることである、②自分の固定観念が主と一つになることを妨げており、造り変えられなければ主に符合できないので、主と同労することができない、ということです。主は私の益のため、特に造り変えるために環境をアレンジしてくださっていますので、万事は益となります。ハレルヤ! 主を賛美します。

祈り:「おお主イエスよ、環境は神がアレンジされていることを認め、受け入れます。多くの場合、環境が私の観念と合わないのは、私の観念を更新し、造り変えるためです。この環境を用いて、私を造り変え、主に符合し、主と同労することができるようにしてください。アーメン!」

Crucial Point(3):新約の受肉の原則は、

神と人が混ざり合い、神が人と共に語ることである

OL1:パウロは主と一であったので、パウロが語った時、主も彼と共に語りました。こういうわけで、I コリント7章には新約の肉体と成る原則の模範があります。

OL2:私たちはI コリント7:25と40において、最高の霊性を見ます。すなわち、主と一であり、主で飽和されているので、自分の意見でさえも主の思いを表現している人の霊性です。I コリント7:40 しかし、私の意見では、彼女がそのままにいるなら、もっと祝福されます。しかし、私も神の霊を持っていると思います。

OL3:もし私たちがその霊で浸透されているなら、私たちが表現するものは私たちの思想ですが、それは主からのものでもあります。なぜなら、私たちは主と一であるからです。これは、キリストを私たちの中で生きている預言者として経験して、神のために語り、神を語り出すことです。

I コリント7章は奥義的で深いのです。この章でパウロは、「主はこう言われる」という言葉を決して言いません。パウロがそのような表現を使わないのは、新約における使徒たちの教えが、完全に肉体と成ることの原則に基づいているからです。この原則によれば、神は人が語る中で語られます。…主イエスはパリサイ人に語られた時、ナザレ出身の普通の人のように。彼が異なっているしるしは何もなく、パリサイ人は彼を無学な人と考えました。しかし、主イエスは肉体と成った神です。彼には肉体と成ることの実際があります。ですから、彼が語っておられた時、神も語られました。実は、彼の語りかけは神の語りかけでした。神は彼と共に語られました。これは、主イエスの中で、神と人が一となって共に語ったことを意味します。これが肉体と成ることの原則です。

これは、旧約の預言(神のために語る)の原則とは大いに異なります。すでに指摘したように、旧約では、エホバの言葉は預言者に臨みました。預言者は、神の代弁者にすぎませんでした。ところが新約では、主は彼の使徒たちと一になり、彼らは主と一になります。両者は共に語るのです。主の言葉は彼らの言葉となり、彼らが語ることは何であれ、主の言葉です。ですから、使徒の命令

は主の命令です。使徒が言うことは、たとえ主が言われたのでなくても、やはり新約の神聖な啓示の一部となります。彼は主とそこまでも一です。すなわち、彼が主からの命令ではなく、自分の意見を述べた時でさえ、彼は自分も神の霊を持っていると、なおも思います。彼は神の霊を持っているとはっきり主張するのではなく、「私も神の霊を持っていると思う」のです。これは最高の霊性です。それは肉体と成ることの原則に基づいています。

適用:奉仕者編

旧約の預言者は神の代弁者でしたが、新約の預言者は受肉の原則の中で主と預言する人が混ざり合い一つになって、神のために神を語り出します。

使徒17:16 さて、パウロは…、町が偶像で満ちているのを見て、彼の霊は内側で憤った。

FN「彼の霊」:パウロの人の霊であり、神の霊によって再生され、霊なる主が内住し、その霊と共に行動します。パウロはこの霊の中で神を礼拝し、仕えました。そのような霊は、アテネにある多くの偶像のゆえに憤りました。使徒行伝のこの御言葉で、パウロは霊の中で憤りました。パウロは神が憤っていると言ったのではなく、自分の霊と神の霊がミングリングした霊の中で憤ったのです。

ローマ1:9 私が私の霊の中で、御子の福音において仕えている神が、私の証人なのです…、

FN「私の霊」:神の霊ではなく、パウロの再生された霊です。この霊は、心、魂、思い、感情、意志、天然の命とは違います。キリストとその霊は、信者たちの再生された人の霊の中で、信者たちと共におられます。本書でパウロは、…私たちが神に対して行なうすべてが、この霊の中でなければならぬことを強調しました。…これは、彼の福音の宣べ伝えにおける、第一の重要な項目です。

あなたが神に仕える第一の重要な項目は、「私の霊の中で」仕えることです。この霊は神の霊とミングリングした人の霊です。神が言うだけでなく、あなたの霊と共に言われます。これが新約の受肉の原則です。神戸に在る召会は、三宮集会所を2019年11月末に購入しました。この事例を上げて説明します。召会の責任者たちは、「主よ、あなたは買いたいですか、それとも買いたくないのですか。私たちは分からないので、あなたが教えてください」と祈ったものではありません。そうではなく、「私たち、召会は前進するために神戸の中心地である三宮近辺にどうしても集会所が必要です。主よ、あなたの神戸における証しを増強して下さい。そのためにどうかこの物件を祝福して下さい」。責任者たちは祈って物件を見に行ったら、さらに祈って交わり、その日中に購入意向を売主に伝えました。銀行から購入費の約90%を借入する必要があるので、融資の審査が下りるまでの約2週間、次のように祈りました:

「おお主イエスよ、あなたの権益のために、低利子で希望している金額を全額借りられるようにしてください。しかしながら、私たちはこの物件で、あなたとの結合から離れないように、警戒心を持ち続けます。もしこの物件が、みこころでないなら融資が下りないようにしてください。その場合、あなたはもっと優れた物件を召会に与えて下さらなければなりません。私たちは現時点でこの件について、からだの感覚は平安であり、あなたが祝福していると感じており、着手しました。主よ、命と平安の感覚の中で、私たちを導いてください。あなたの召会に繁栄を与えて下さい。アーメン!」

これらの召会の責任者たちの祈りは、受肉の原則の中にあっただと思います。